

通信

～潟の歴史を未来につなぐ～



潟さべり

2020/03/13

第5号

八郎潟・八郎湖学研究会 発行

現地セミナーの再延期について（お詫び）

昨年10月に実施予定だった「現地セミナー2019」が超大型の台風19号接近のため延期となったことから、今月21日～22日の開催を目指して準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染の急激かつ深刻な拡大を受け、再延期せざるを得ない状況となってしまいました。

2月下旬時点での政府の要請が、「今後1～2週間程度の集会等の自粛」との内容でしたので、「3月下旬であれば開催可能」という判断のもと、チラシを作成・配布いたしましたが、3月6日の役員会で検討した結果、「再延期やむなし」との結論に至りました。既に申し込みをいただいていた皆様には大変申し訳ありません。

今セミナーは、「八郎太郎伝説の魅力、再発見」と題して、従来とは違った視点から八郎潟・八郎湖を考える貴重な場となるはずだっただけに、日程を調整のうえ、後日ぜひ開催したいと考えておりますので、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。



ワカサギ漁の様子



網に入ったワカサギ

写真提供：杉山秀樹氏（2019年11月8日撮影）

「合評会」を開催しました

昨年5月に本会の叢書第一弾として出版された杉山秀樹著「八郎潟・八郎湖の魚～干拓から60年、何が起きたのか～」について、1月8日に追分「はん妻」で合評会を行いました。

さがけブックレットより上梓された本書は、干拓前から干拓後まで確認されたすべての魚介類130種を紹介した初めての図鑑です。

本会幹事でもある著者の杉山秀樹先生は、秋田県そして八郎潟・八郎湖の魚類研究の第一人者ですが、本書は単なる魚類図鑑に止まらず、その魚が「いつどこにいたのか」、「今はどうなっているのか」という視点から書かれていることが大きな魅力です。

当日の参加者は会員のみ10名でしたが、そ

それぞれの観点から率直に感想を語り合いました。本書がたいへんな労作であり、手軽なサイズの本ながら、内容の充実した貴重な資料であること、また、巻末には八郎潟・八郎湖の魚の詳細なリストや参考文献、索引も完備しており、今後の研究者にとっても第一級の価値を有することなどが語られました。

とりわけ、本会幹事で秋田県立大学教授の高橋秀晴氏が語った「この60年間の八郎湖の歴史や現実が魚類の視点から見事に語られている本である」という言葉に、参加者一同深く納得しました。



本書には興味深い魚（コイ、ウナギ、ブラックバス他）の話、絶滅した魚、菅江真澄が見た魚、潟の食文化などの興味深い話題も満載です。

まだご覧になっていない方はぜひ一度手に取り、

ご活用いただきたいと思います。お求めは書店かインターネットで。価格は1,300円(税別)となっています。

「潟の思い出を語る会」を開催

昨年12月1日（日）に、潟上市天王の寺院「自性院」で「潟の思い出を語る会」を開催しました。当日は時折師走の冷たい雨が降る肌寒い一日でしたが、事前申し込みの方に加え当日参加希望された方々も多数来場し、30名を越える参加者による、熱気に満ちた会となりました。

この企画は、自性院の住職、鈴木道雄さんが中心となって昨年春に出版された、「八郎潟潟語り」の著者の皆さんを囲んで、かつての八郎潟の思い出を自由に語り合う目的で実施されたものです。懐かしい干拓前の八郎潟の写真やイラストがふんだんに載ったこの本は、住職の鈴木さんが25年間連載してきた寺報の記

事をまとめて出版したもので、当日は鈴木さんのほか、写真を提供した児玉英逸さん、本にも登場する潟船保存会会長の石川久悦さんにも登場していただきました。



午後1時30分から始まった会では、はじめに前述のお三方から、出版に至るまでのさまざまご苦労や意外なエピソードなどをお聞きすることができました。

休憩後は「潟の思い出を語り合おう」ということで、各参加者から「自分と潟とのかかわり」など、潟にまつわる多彩な話題が出されました。参加者には、かつての八郎潟を知る年代の皆さんだけでなく、干拓後の八郎湖の姿しか知らない世代の方々もいて、いろいろな視点から八郎湖についての興味深い話が次々と出され、心とむひとときとなりました。話し合いは、終了予定の午後4時をオーバーするほどで、今なお八郎潟や八郎湖に深い関心をもつ方々が多いことを実感しました。

この会の様子は後日秋田魁新報等でも報道されましたが、当日の参加者の熱気を今後の本会の活動に生かしながら、八郎湖に関心をもつ方々の輪を広げていきたいと思いました。



「ミニ研究会」を開きました

『「八郎太郎伝説の謎に迫る」～北東北に広がる伝説と太郎の宿～』というテーマで、昨年11月12日の午後、秋田県立大学秋田キャンパスで本会主催のミニ研究会を開催しました。

講師は15年以上にわたって「八郎太郎」についてのフィールドワークを続けておられる、男鹿市在住の永井登志樹さんです。当日は会員中心の研究会ではありましたが、20人ほどの会員が熱心に永井さんの講演に耳を傾けました。



本会の谷口会長(右)と講師の永井さん

講演は、丹念に現地に足を運んで研究を重ねてこられた方ならではの、写真をふんだんに用いた内容で、聴講している側も現地に立っているかのような臨場感あふれるものでした。



3時間近くに及ぶ講演では、初めて耳する事柄が多く、改めて八郎太郎伝説の地域性の広さと奥行きを知る事ができました。

地域性で言えば、旧南部藩領である青森県東部から岩手県北部、そして秋田県鹿角地方に残る伝承の多さには驚かされました。青森県の八戸市周辺では「八太郎」や「八の太郎」と

呼ばれて定着していることや、十和田湖をめぐる争った南祖坊への信仰が篤いこと、江戸時代後期に書かれた菅江真澄による十和田湖等の記述から読み解ける事柄など興味は尽きませんでした。

また、青森県では旧津軽藩領である五所川原市や黒石市、西目屋村などにも伝承が残されていることで、北東北全域に広がりをもつ、このテーマのスケールの大きさを実感しました。



この伝説の根拠となった事象は何かという疑問も湧きますが、その一つとして今から1000年前の平安時代に起こった「十和田湖の噴火活動」が紹介されました。噴火による火砕流堆積物が米代川流域に大規模な土砂災害をもたらした歴史が八郎太郎の伝説を生み出したのではないかと思います。伝説の奥行きを感じさせるお話でした。

一般に流布している伝説では、八郎太郎は毎年冬を越すために、凍らない湖である田沢湖に出かけることになっていますが、実際に田沢湖に向かう太郎を宿泊させたという家が、まだ何軒も残っているという事実にも驚きました。宿泊の御礼として、太郎から薬の製法を伝授されたという家があり、その薬も実在することが不思議でなりませんでした。

八郎湯・八郎湖には、過去から現在に至る信仰にも似た人々の思いが脈々と受け継がれていることをひしひ



しと感じたミニ研究 八郎が伝えたという目薬 会となりました。次回の現地セミナーでさらに掘り下げたいと思いますのでご期待ください。

八郎潟の風物詩「うたせ舟」が 運行されました

八郎潟の風物詩「うたせ舟」が令和元年8月18日に、8年ぶりに運行されました。これは八郎潟町観光協会が主催する「全日本野鯉・鰯釣り大会」が節目の30回を迎える記念行事として実施したものです。

当日は快晴に恵まれ、絶好の運行日和となりましたが、午前午後2回ずつ計画された参観遊覧船の運航は、残念ながら「うたせ舟」の帆柱が折れたことから、午前11時に出港したグループだけが、優雅に白帆を張って漁をする様子を参観しただけで、他のグループはその雄姿を見ることはできませんでした。

午後の参観グループに入っていた本会事務局の2名は、帆を張る「うたせ舟」はカメラに収められなかったものの、八郎湖を疾走する遊覧用の舟から、現在の八郎湖の眺望を楽しむことができ、たいへん有意義でした。



帆柱が折れ、白帆をたたんだうたせ舟

また、遊覧中の船内では、午前中のうたせ舟漁で獲れたシラウオの試食もあり、新鮮な珍味に舌鼓を打ちました。

今後「うたせ舟」が運行される機会はなかなかないと思われますが、参観希望者が多数のため抽選で乗船者を決めたことから



うたせ舟で漁獲されたワカサギ

も、八郎湖や「うたせ舟」に関心をもつ方々がたくさんおられることを実感した一日でした。

◇ 今後の事業予定 ◇

○2019年度の事業として計画していた「現地セミナー『八郎太郎伝説の魅力 再発見』」は、新型コロナウイルスの状況を見極めつつ講師の日程調整ができ次第チラシを作成し、会員の皆様や前回申込みをいただいた方々にお知らせして実施する予定です。

○3月中に開催する予定であった通常総会は、現状では開催の見通しが立っていません。こちらでも状況を見ながら、なるべく早い時期に開催したいと考えております。見通しとしては5月以降にずれ込むことも予想されますが、会員の皆様にご案内を差し上げた際はぜひご参加ください。

会員を募集しています

会員には通信を定期的にお届けするほか、各種イベントの案内、主催イベント参加費の軽減などの特典があります。

○正会員……………3,000円

○団体会員……………5,000円

○賛助会員 ……10,000円

(会費はいずれも年会費です)

◎申込について

郵便局と秋田銀行に振込口座を用意しています。口座番号が印刷された郵便局の振込用紙もありますので、事務局までメール等でお問い合わせください。

～八郎潟・八郎湖に関心のある皆さん
ぜひ仲間に加わってください～

八郎潟・八郎湖学研究会

事務局：秋田県立大学 環境社会学研究室内
〒010-0195 秋田市下新城中野字街道端西241-438

TEL・FAX：018-874-8686(NPO法人はちろうプロジェクト内)

E-MAIL：88gaku@gmail.com

URL：<http://hachiro865.net/hachirores.html>